

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079800217
法人名	特定非営利活動法人 ペガサス
事業所名	グループホーム えがお
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町伊方桑の木2450番地の17 (電話) 0947-49-7500

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋4 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)8,000円	
敷金	有(100,000円)*退去時に居室の補修費に充当し残金は返還する			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,200円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	10名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 85.8歳	最低	80歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川市立病院 / 田川病院 / 中山内科消化器科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームえがおは、高台の閑静な住宅地にあり、見晴らしが良く、畑や栗林に囲まれており、角地のため行き止まりになっており交通量も少なく、ゆっくり散歩などを楽しむ環境を有している。ホームの理念は、現場重視という考え方に基づいて、職員の協働により設定し、更に理念をより具体的に「私たちの八つの約束」をケアの指針として掲げ、管理者・職員が一丸となって取り組んでいる。敷地は広く庭には芝生が植えてあり、菜園や花壇も作られている。建物は木材をふんだんに使った日本家屋で、天井も高く、全体的にゆとりのある広々とした空間となっている。玄関には、地域の方が持参して下さった花が大きな花瓶に生けており、温もりがある空間となっている。職員の7割が専門スタッフで、しかも職員全員が常勤のため、極め細かなサービスが提供され、ホームに対する社会的信頼も高く、入居者が安心して暮らせる環境・条件を整えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、市町村との連携、思いや意向の把握、チームでつくる利用者本位の介護計画、災害対策への取り組みが今後望まれることとして挙げられている。外部評価の改善点を受け、改善点を明確にし改善に向けた努力と体制づくりを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が中心となってミーティングを行い、全職員が自己評価を通じて改善点を把握し、統一かつ効果的なケアを提供できるように自己評価に取り組んでいる。また、入居者及び家族の安心・満足を高めるための努力と体制づくりを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	行政代表・区長・会長・有識者・家族会の代表などに出席してもらい、地域に開かれたグループホームを目指して2ヶ月に1回運営推進委員会を開催している。内容はホームの取り組み(行事報告・活動報告)を報告し意見交換を行い、地域とのコミュニケーションの場として活かしている。運営推進委員会が出された意見などは日々のサービスの質の向上に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居時に家族や入居者の不安や疑問点などをよく聞き、十分に説明し納得していただいたところで契約を交わしている。家族と入居者との関係をつなぎ、また、家族の意見を聞く機会として、利用料は家族に持参をお願いしている。また、入居者が何でも話せる雰囲気づくりに心がけている。苦情については、窓口を設置すると共に対応についての内容を契約書に定めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	区の常会に加入し地域の各種活動に参加しており、区長をはじめ隣近所の方とは自然な交流ができています。また、区長や老人会長のお宅を定期的に訪問し、地域内の高齢者の状況を把握し、何か取り組みができないかを話し合ったり、区長や地域の方の個別の介護相談も受けている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が協働で、その人らしい暮らしの楽しみや生き方を支援するために理念及び5つのこだわりを掲げ、ケアの指針として「私たちの八つの約束」を定め、事業所独自の理念をつくりあげている。「入居者にえがお、スタッフもえがお、家族にもえがお、えがおの連鎖」を日々のケアに活かし、管理者・職員と入居者・家族と共に地域でその人らしく暮らし続ける支援の実践に努めている。		平成18年の法改正により「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」を主旨とした地域密着型サービスとしての役割を理念に組み込むことが求められ、「5つのこだわり」に地域との関係性を示しているが、更に一步、理念への反映が求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「私達の理念」や「私達の八つの約束」をホーム内にわかりやすく掲示すると共に毎朝、朝礼時に唱和することで理念の共有を図っている。日々のケアの中で、職員一人ひとりが理念を意識し実践できるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区の常会に加入し、月1回、年1回の総会にも参加している。地域の草取りや掃除へも積極的に取り組んでいる。地区主催の夏祭り等にも入居者と参加し、地域との関係を図り、何かあれば地域の方々の相談を受けることになっている。また、小・中学校の総合学習の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の中で改善・指導を受けた項目については、自己評価を通じて改善点を明確にしている。前回の評価を通じてホームをより良くしていこうという視点に立った改善に向け自己研鑽を推進している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政代表・区長・会長・有識者・家族会の代表などに出席してもらい、地域に開かれたグループホームを目指して、2ヶ月に1回運営推進委員会を開催している。内容はホームの取り組み(行事報告・活動報告)を報告し意見交換を行い、地域とのコミュニケーションの場として活かしている。運営推進委員会で出された意見などは日々のサービスの質の向上に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険法の改正により、条文の解釈等に悩むことがあり、その都都市町村や広域連合の窓口を尋ね、担当者に助言を求めて問題解決を図り、質の向上に努めている。また、福智町内のグループホーム連絡協議会を立ち上げ、行政の協力により、会議室を借りるなど連携を図っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	法務局から資料を頂き、職員全員での勉強会を行っている。現在の入居者には制度利用者はいないが、入居者及び家族からの質問に対しては、適宜必要に応じて地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての説明を行っている。今後は、地域包括支援センターとの協働により、権利擁護など長期的な展望のもと、必要な方に支援していきたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや行事等のお知らせとして「えがお通信」を家族に郵送している。金銭管理は、個別の出納帳を付け定期的に家族に報告している。職員の異動や離職に関して、家族が気にかけている方もあり、介護現場の現状を伝えるなど報告が望まれる。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、自由な意見・苦情等の把握に配慮している。苦情等があった場合、職員に報告し対応策を話し合っている。運営推進委員会に家族会の代表が参加し意見などを言っていただけのように取り組んでいる。是非、都合がつけば他の家族の参加も依頼し、多くの家族が意見や意向を伝える場としても活用してほしい。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動や離職の際には、入居者と職員のなじみ関係に配慮しながら、入居者と職員の関係づくりを図りながら交代などを行い、入居者のダメージを防ぐ取り組みを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、福祉に対する仕事感・使命感を重視した職員採用をしており、年齢・性別制限はしていない。高齢者に対する思いやり・優しさなど、自分の身内のように接することができる資質を見極め採用している。職員が意欲を持って働けるように、介護福祉士などの資格取得や研修会の参加などを支援し、自己実現を図ることができるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権に関する内部研修・勉強会を実施し、職員全員へ人権・権利擁護など徹底して周知してもらっている。また、申し送り時等に入居者の人権の尊重を促すよう話をしている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	運営者は職員の質の向上・育成が不可欠であると理解し、積極的に外部研修に参加させている。また、内部研修も定期的実施し、職員の質の向上に努めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域の同業者については、相互訪問や電話での意見交換等を通じて、相互にサービスの質を向上させる交流を行っている。また、福智町のグループホーム12ヶ所とグループホーム連絡協議会に立ち上げ、定期的に月1回の会合を行い、ネットワークづくりへの取り組みを行っている。今後は、ネットワークにより、地域への認知症の理解を高める機会の創出など期待される。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	利用開始前に、何度か訪問し状況を把握し入居者と顔なじみの関係をつくり、安心していただけるように努めている。また、体験入居が2～3日間でき、何回かホームを訪れ食事を一緒に楽しんでいただくなど、徐々に入居者がなじみながら入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者と職員(介護者)という立場にとらわれず、毎日の生活の中で食事と同じ物を食べ、食を通じてだしの取り方を教わったり、これまでの生活歴を尋ねたり、入居者とのコミュニケーションを十分に取り、入居者の暮らしに寄り添うケアを実践している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人がどのように暮らしていくことを望んでいるかなど、日々の対話で把握するように努め、入居者と同じ目線で、入居者の行動や表情から思いを汲み取り支援できるように取り組んでいる。今後はセンター方式の採用なども検討したいと考えている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアに携わる職員のやりがいや自信を深めるために、全体の意見交換の場を設け、それぞれの意見やアイデアを反映したプランづくりを行っている。介護計画に関して、家族の意向や希望の反映が一方的になっていないかなど、家族の意向を更に確認し、介護計画に活かしていくことが求められる。</p>		<p>それぞれの家族に、サービス担当者会議への参加を呼びかけるなど、介護計画に対する理解を育み、家族の意向や希望を介護計画に反映していくことが必要である。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の日々の変化について、介護記録・ケアプラン実施表・ミーティングなどを参考にし、必要に応じてプランの見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>同法人グループは介護分野のサービス事業を多彩に展開し看護師・社会福祉士など専門職が多く、ネットワークとしてマンパワーが充実している。各種専門職との情報交換を行うなど、ケアやサービスの質の向上を図る取り組みを行っている。また、えがお主催の夏祭りでは、グループのマンパワーの協力を得て、大々的に開催することができている。法人のバックアップによりバスハイクも実現している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の状態の変化に応じて、その都度受診し医師に診断していただき支援している。入居者の通院介助は職員が行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した時や終末期にどう対応するかは、協力医療機関の医師・かかりつけ医・家族と話し合っている。重度化した場合における看取りに関する指針・医療連携体制同意書があるが、具体的な方針の統一などが求められる。		入居者や家族が安心して重度化・終末期に向け、対応できるように具体的な話し合いと方針の統一が今後も求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	居室入室時のロック・声かけの徹底を行っている。言葉かけは入居者の自尊心・羞恥心に配慮している。個人情報については、事務所に保管・管理し、また、職員の守秘義務徹底などスタッフ教育をしており、個人情報の取り扱いには十分配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	自宅に代わる在宅として家庭的な雰囲気の中、入居者の体調や意向・入居者のペースを考慮し、日々の暮らしを支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の能力に応じて考慮し、食事の準備や片づけなど、できることを一緒に行っている。疾病等に配慮しながら入居者一人ひとりの嗜好に可能な限り添うようにしている。調理は専任の職員がおり、季節感を感じていただけるように工夫がある。食事中はテレビを消し、オルゴールのBGMを流し、入居者と職員が共に会話を楽しみながら食事をとっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者のその日の体調に合わせて、気持ちよくゆっくり、ゆったり入浴できるように気を配っている。また、必要に応じて見守りや介助を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の生活歴やできる力を活かし、楽しみごとの発見に努めるなど楽しみごとの充実を図っている。生け花や洗濯・庭仕事など、できることを行っていただき、入居者一人ひとりの役割があり、生きがいがある暮らしができるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	1週間の月・火・金曜日はリハビリにより、機能維持・機能促進を図っている。毎週水曜日は、買い物・ドライブなど外出している。日常的には、近くの公園など散歩している。また、季節に応じて、初詣・花見・紅葉ドライブなどバスハイクを企画したり外出を支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	ホームの立地環境が高台の住宅地の角地で交通量も少なく安全面が確保されている。職員は目配り・気配りを行い、鍵をかけない暮らしが大切と考え、日中は玄関の鍵をかけずに開放的にしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	防火管理者を選任し、消防署の協力で定期的な避難訓練を行っている。災害時のマニュアルや連絡網も完備している。区長と連携して地方の方々への協力をお願いしている。9月には、夜間対応の消防訓練を計画している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	個人記録表に日々の摂取量を掲載し把握している。料理の食材は業務委託によりカロリー計算が行われ、栄養面の管理も行っている。献立は、希望すれば別の献立を提供し、入居者の嗜好や栄養のバランスにも配慮している。夜間を含め定期的な水分補給を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	木造造りの温かみのある空間づくりで、天井は吹き抜けにより高く開放的でゆったりとした空間となっている。入居者が思い通りに過ごせるように、椅子やソファの配慮に気を配っている。居間からの緑の景色が素晴らしく、庭の木々や花々に季節を感じられるように木々等の配慮にも工夫している。また、間接照明なども配慮し居心地の良い空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居の際に、できるだけ使い慣れた家具などを持ち込んでいただけるようお願いしている。居室は、テレビ・冷蔵庫・箆笥・ソファ・壁掛け・写真などなじみの家具や備品が持ち込まれ、居心地の良い本人らしい空間となっている。各ユニットに夫婦二人部屋が設置され、寝室とリビングの空間として利用できるように配慮がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			